

### 6.3.6 地盤

#### (1) 地盤の変化の状況

東京都における平成30年の地盤変動量の状況は図6.3-10に、計画地周辺における最近5年間の地盤変動量は表6.3-17に、調査地点は図6.3-11に示すとおりである。

平成31年における計画地周辺の地盤変動量は、前年と比較して-0.0007～+0.0002m程度であり、著しい地盤変動は発生していない。



出典：「平成30年地盤沈下調査報告書」（令和元年7月 東京都土木技術支援・人材育成センター）

図6.3-10 地盤変動量図(平成30年)

表6.3-17 計画地周辺における地盤変動量(平成27～31年)

地点	基標番号	測定地点	東京湾平均海面(T.P.+m) (地盤変動量(m))				
			H27	H28	H29	H30	H31
1	赤(6)	南青山四丁目2 (青山橋前)	[19.8082] <sup>※</sup> (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
2	赤(7)	南青山五丁目18 (秀和高樹町レジデンス向側)	30.4313 (-0.0007)	30.4325 (+0.0012)	30.4355 (+0.0030)	30.4334 (-0.0021)	30.4336 (+0.0002)
3	赤(8)	北青山三丁目5 (表参道交番脇)	33.5354 (-0.0010)	33.5349 (-0.0005)	33.5380 (+0.0031)	33.5365 (-0.0015)	33.5358 (-0.0007)

※：地点1は近年、地盤変動量の調査が実施されていなかったため、平成25年の調査結果を参考値として[ ]で示す。

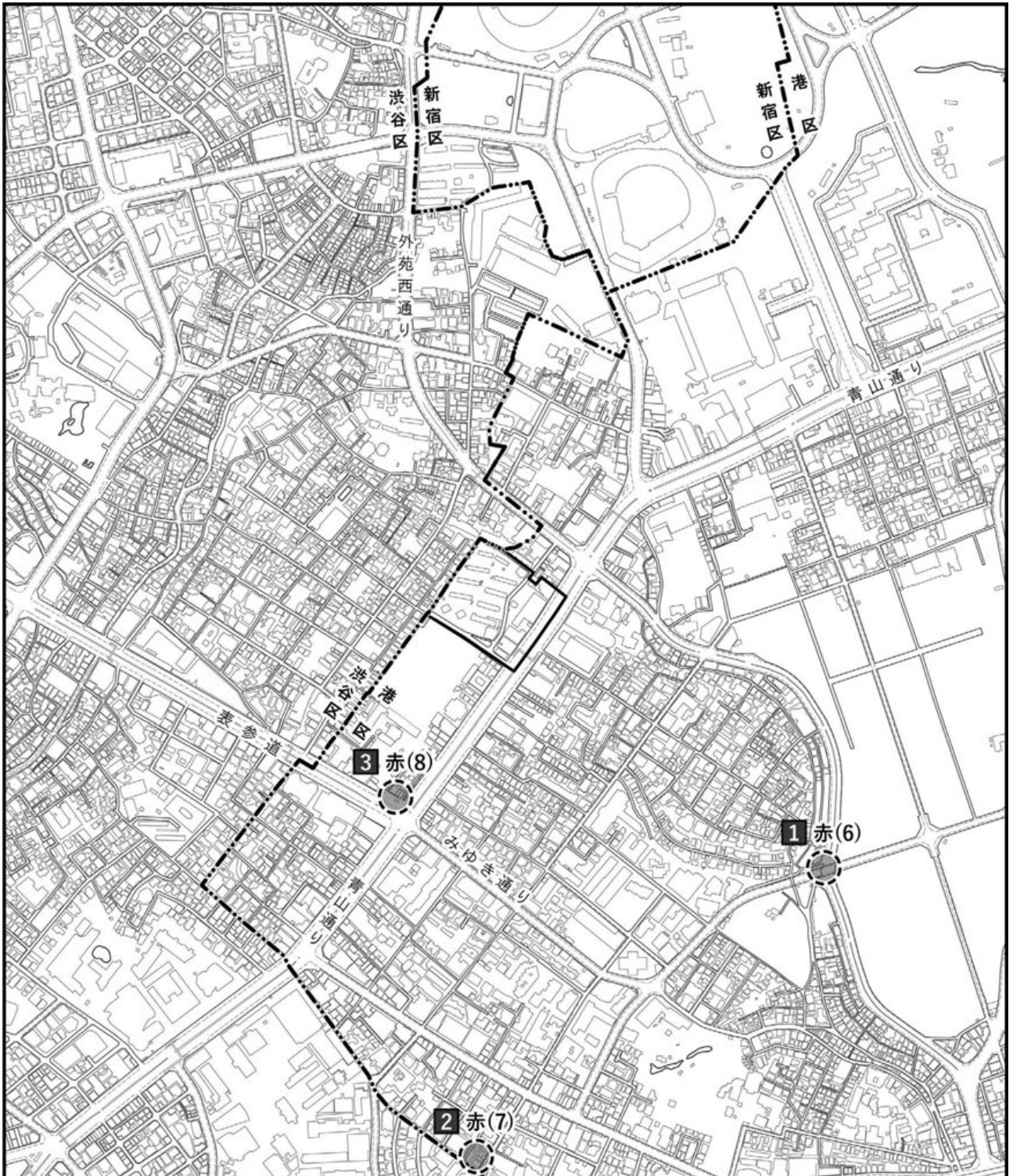
注1)地点番号の表記は、図6.3-11に対応する。

注2)測量を行わなかった年については、「-」と示した。

注3)各年の変動量は、前年1月1日基準日と各年1月1日基準日の測量成果との比較である。

注4)地盤変動量の(+)は隆起を、(-)は沈下を表す。

出典：「水準基標測量成果表(基準日・平成27～31年の1月1日)」（東京都土木技術支援・人材育成センター）

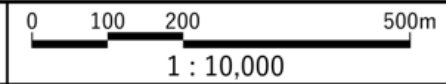


凡例

- : 計画地
- : 区界
- : 地盤変動量調査地点(地点1~3)

注) 下記出典資料をもとに作成  
出典: 「水準基標測量成果表」(東京都土木技術支援・人材育成センター)

図6.3-11 地盤変動量調査地点図



## (2) 地盤沈下に係る公害苦情の状況

港区、渋谷区及び新宿区における地盤沈下に係る苦情受付件数は、表6.3-18に示すとおりである。

平成30年度の地盤沈下に係る苦情受付件数は、港区において1件であり、渋谷区及び新宿区において地盤沈下に係る苦情は発生していない。地盤沈下に係る件数の総件数に占める割合は、0.0～0.4%である。

表6.3-18 地盤沈下に係る苦情受付件数(平成30年度)

区名	総件数	地盤沈下に係る 公害苦情受付件数	地盤沈下に係る 件数の占める割合
港区	260	1	0.4%
渋谷区	106	—	0.0%
新宿区	170	—	0.0%

出典：「平成30年度公害苦情調査総括表」(令和2年2月閲覧 東京都環境局ホームページ)

## 6.3.7 地形・地質

### (1) 地形の状況

計画地周辺及び東京区部の地形の状況は、図6.3-12に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、淀橋台に分類される。

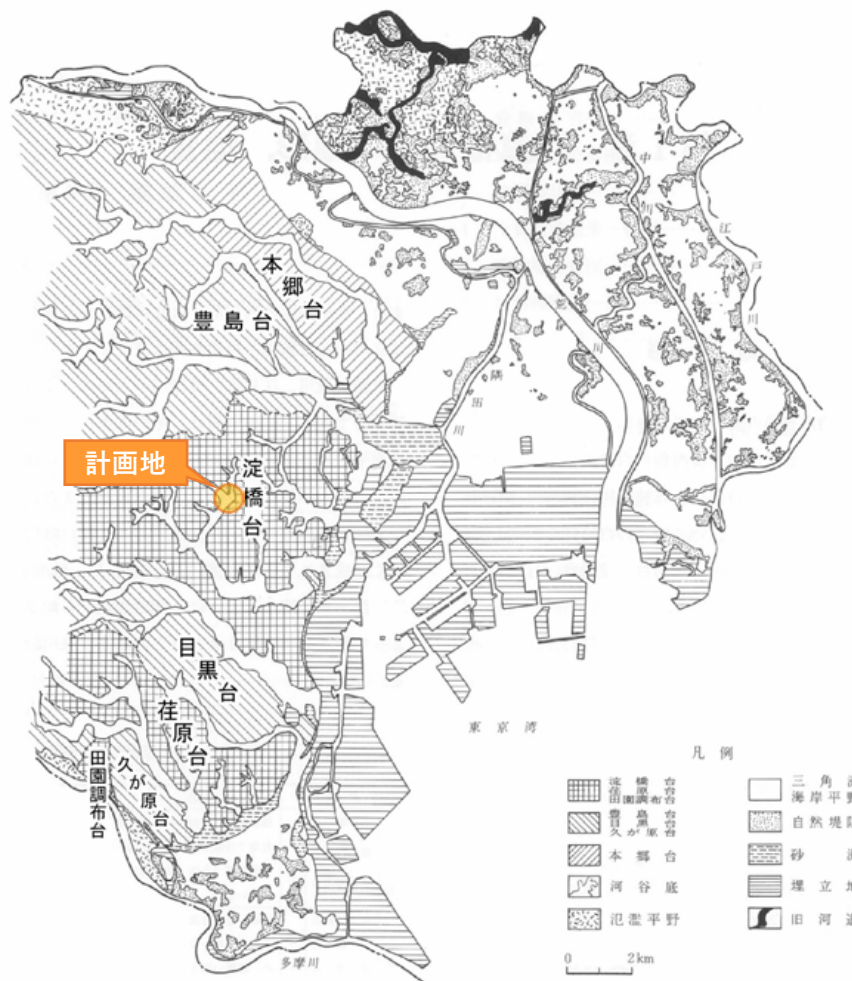


図6.3-12 地形の状況

注) 下記出典資料をもとに作成

出典：「東京都総合地盤図Ⅰ」(昭和52年 東京都土木技術研究所)

## (2) 地質の状況

東京都の区部の地質は、表6.3-19に示すとおりである。

計画地及びその周辺である台地域では、締まった砂や泥岩よりなる上総層群が基盤として堆積し、その上位に洪積世(約160万年前～1万年前)及び沖積層(約1万年前～現在)の地層が堆積している。

表層部には、沖積層の黒色腐植土及び黒土が分布している。沖積層の下部には、洪積世の「立川ローム(Ta)」、「武蔵野ローム(Mul)」、「ローム質粘土(lc)」及び「東京層(To)」が分布している。

表6.3-19 東京都23区の地質層序表

地質時代	台 地 域					低 地 域							
	淀橋台, 荏原台	豊島台, 目黒台	本郷台	立川台	河谷底	地層の重なり方から見た地盤のタイプ							
	A	B	C	D	E	F	G						
沖積層	黒色腐植土 黒土					沖積層(AI)軟らかい粘土, 泥炭	表土・盛土・埋土 有楽町層 { 上部(Yu): やるい砂, 砂礫 (Yu, YI) { 下部(YI): 軟らかい粘土						
洪積世	立川ローム(Ta)					場所によって違いますが、沖積層の下位に分布する主な地質	七号地層(Na), やや軟らかい粘土とやや締った砂の砂礫						
	武蔵野ローム(Mul)						埋立ローム(b1)	埋設段丘礫層-1 (btg-1)					
	ローム質粘土(lc)					立川礫層(Tag)	埋設段丘礫層-2 (btg-2)						
	本郷層(Ho)やや締った砂, 砂礫					↓ Tag							
	武蔵野礫層(Mg)					Ho							
	東京層(To)					Mg							
	東京礫層(Tog)					To	To	締った砂, 硬い粘土互層					
第三紀	江戸川層(Ed)					Tog	Tog	締った礫混り砂, 砂礫					
						Ed	Ed 締った砂, 硬い粘土, 砂礫の互層						
上総層群(Ka): 締った砂, 泥岩よりなる。(三浦層群とも呼ばれている)													

出典: 「東京都総合地盤図Ⅰ」(昭和52年 東京都土木技術研究所)

なお、計画地及びその周辺には、「第3回自然環境保全基礎調査 東京都自然環境情報図」(平成元年発行 環境庁)に掲載されているような学術上あるいは景観上特に配慮すべき地形及び地質は確認されていない。

### 6.3.8 水循環

計画地周辺における主な河川の位置は、図6.3-13に示すとおりである。計画地南側約1,500m以遠に渋谷川・古川が流れている。

「港区みどりの実態調査(第9次)」によると、平成28年度の港区全域の浸透域面積は4,229,896m<sup>2</sup>(浸透域率20.4%)で、平成23年度の調査結果(浸透域面積4,319,114m<sup>2</sup>(浸透域率20.8%))から、やや減少している。また、計画地周辺の湧水は、表6.3-20及び図6.3-13に示すとおりである。

計画地近傍の湧水は、計画地南側約700m付近の「根津美術館(地点6)」に存在し、計画地北西側約1,500mには東京の名湧水57選に選定されている「明治神宮(清正の井)(地点2)」が存在している。

また、港区における地下水位分布の状況は図6.3-14に示すとおりであり、計画地周辺の地下水は北西から南東方向に流れていると推測される。

表6.3-20 計画地周辺の湧水の状況

地点	名称	所在地	流入河川	出典資料番号※	
				①	②
1	善福寺(柳の井戸)	港区元麻布1-6-21	古川	[Yo-17]	(09)
2	明治神宮(清正の井)	渋谷区代々木神園町1	渋谷川	[Yo-35]	—
3	区立有栖川宮記念公園	港区南麻布5-7-29	古川	[Yo-16]	(801),(802)
4	区立宮村児童遊園	港区元麻布2-6-22	古川	[Yo-18]	(10)
5	がま池	港区元麻布2-10	古川	[Yo-19]	(11)
6	根津美術館	港区南青山6-5-1	古川	[Yo-23]	(1501),(1502)
7	区立鍋島松濤公園	渋谷区松濤2-10	渋谷川	[Yo-37]	—
8	元麻布三丁目緑地	港区元麻布3-6-19	古川	[Yo-702]	(30)
9	T氏邸	(記載なし)	(記載なし)	—	(06)

※：[ ]内の数字は下記出典資料①における地点番号を、( )内の数字は下記出典資料②における地点番号をそれぞれ表す。

注1) 地点番号の表記は、図6.3-13に対応する。

注2) ：東京の名湧水57選

注3) 下記出典資料をもとに、すでに枯渇していると考えられる地点については、記載を除外した。

出典:①「湧水マップ～東京の湧水～(平成30年度)」(東京都環境局)

②「港区みどりの実態調査(第9次)」(港区)

### 6.3.9 生物・生態系

計画地周辺における植生状況は、図6.3-15に示すとおりである。

「自然環境保全基礎調査 植生調査(第6回・第7回調査)」によると、計画地及びその周辺は「緑の多い住宅地」及び「市街地」に分類されている。その他、計画地周辺は「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」、「ゴルフ場・芝地」等が見られる。

